

## 秋田県仙北市（視察日：令和4年10月4日）

### 国家戦略特区の取組みについて

#### 1 仙北市の概要

仙北市は平成17年9月20日に旧田沢湖町、旧角館町、旧西木村が合併。東京都の約2分の1の広大な面積に、人口は約2万5千人（約1万世帯）。地域の約8割が森林地帯で、気候は冬季には全地域で平均気温が氷点下を下回る厳しい寒さである。角館（田沢湖）、乳頭温泉、八幡平（玉川温泉）、2つの新幹線駅などを有し、年間約500万人の観光客数を誇る観光の町。

しかし、17年間で約8,300人の減少と高齢化率44.2%（高齢化率50%の集落も存在）という深刻な人口減少と少子高齢化に直面し、何らかの対策を模索するなかで目標を「若者が魅力を感じるまちづくり、早期にUターンが必要」として取り組んだ。あらゆる可能性にチャレンジすることの中で、『国家戦略特区』として、「林業・医療の交流のための改革拠点」に認定された。

#### 2 視察目的

降雪山間地域である点、人口規模などが小千谷市に通じるものがあり、平成27年8月に国家戦略特区指定（地方創生近未来特区）となったきっかけや展望を勉強し、その効果や問題点の視察を目的とする。

#### 3 視察内容（国家戦略特区の取組みについて）

国家戦略特区制度は、成長戦略の実現に必要な大胆な規制・制度改革を執行し「世界で一番ビジネスがしやすい環境」を創出することを目的に創設。規制の特別措置の整備や関連する諸制度の改革等を総合的かつ集中的に実施するもの。

##### (1) 特区の違いについて（構造改革特区・総合特区・国家戦略特区）

###### 構造改革特区

一旦措置された規制改革であれば、全国どの地域でも活用できる制度。

###### 総合特区

地域の特定テーマの包括的な取組みを、規制の設置に加え財政支援も含め総合的に支援する制度。

###### 国家戦略特区

活用できる地域を厳格に限定し、国に成長戦略に資する岩盤規制改革に突破口を開くことを目指した制度。

三つの特区は、それぞれ異なる特徴があるが、国家戦略特区と構造改革特区との提案を一体で受け付けるなど、連携して運用を行っている。

##### (2) 国家戦略特区のしくみ

国家戦略特区は、岩盤規制を突破する「特別措置の創設」と実現した特別措置を自治体や民間が活用する「個別の事業認定」の2つにプロセスがある。

国家戦略特区で行われた規制改革は、全国規模でその成果を享受できるよう、積極

的に全国展開を進めている。

## 仙北市の取り組み

「地方創生特区」は、国家戦略特区としての規制改革により、地方創生の実現を目指す「志の高い、やる気のある地方の自治体」を指定するもの。

「近未来技術実証特区」は遠隔医療、遠隔教育、自動飛行、自動走行などの近未来技術、規制改革を検討した上でそれらの技術実証を推進する自治体を指定するもの。

仙北市では、「仙北市近未来技術実証ワンストップセンター」を開設し、自動車の自動運転、無人航空機およびA I ・ I o T等の実証実験を希望する企業等に対し、必要な手続き情報の提供、その他支援等を行っている。

以下の8メニューや近未来技術の実証を展開している。

### 特区メニュー

国有林野活用促進事業、農業法人多角化等促進事業、高年齢退職者就業促進事業、特定実験試験局制度に関する特例事業、特定非営利活動法人設立促進事業、旅行業務取扱管理者確保事業、旅行業務取扱管理者の要件緩和事業、仙北市近未来技術実証ワンストップセンター

### 実証

無人運転バス公道実証実験、ドローンに関する取り組み（農業・物資配送）、水素生成パイロットプラントの製作稼働試験、防災情報プラットフォームを用いたスマートシティ実証事業、角館オンデマンド交通「よぶのる角館」の運航開始、仙北市指定ドローン飛行エリア

## 4 所 感

仙北市は非常に前向きかつ意欲的な試みをしている。小千谷市において直面している課題、問題が岩盤規制に原因の一端があるのであれば、特区制度は解決策の一つとしては有効かと思われる。

仙北市がポイントとして解説してくれたように「特区に指定されただけでは何も起きない」という言葉は非常に印象的。地域活性化に資する規制緩和の発案と実施主体となる民間事業者の存在が不可欠であるが、成功すれば規制緩和のメニューは全国に展開され、仙北市の優位性などのメリットが弱くなってしまう。そんな難しさを感じる。

一方、企業と行政の人的交流や様々な情報交換は、特区を獲得する中で進んできた印象を受けた。民間活力と行政の連携強化は、特に中小規模の自治体においては重要な課題であり、手法であることを再確認することとなった。

# 秋田県能代市（視察日：令和4年10月5日） 能代市の学校教育・学力向上の取組みについて

## 1 能代市

能代市は平成18年3月21日に誕生。高速道路の整備が進み、県北地区を横断する高速道路があと数年で全線開通する。エネルギー港湾として発展してきた能代港は秋田県北部に展開するエコタウン構想や高速道路の開通と相まって、産業物流、観光交流の拠点として期待が高まっている。

## 2 視察目的

秋田県は全国学力・学習状況調査において常に全国でトップクラスを維持、その中でも能代市は県平均を上回っている。能代市での児童・生徒の学力や学習状況など「学力向上の取組み」について視察を行う。

## 3 視察内容（学力向上の取組みについて）

秋田県は、昭和31年の全国学力テストで小学6年生の国語・算数が全国最下位、中学3年生の国語が最下位、数学が下から2番目という不名誉な結果を受けて、県と能代市は魅力ある授業に取り組み、平成19年に全国トップクラスまで学力を向上させることに成功。

その秋田県が推進する探求型授業とは、子ども同士の対話を生かしながら課題を自分で（自分たちで）解決していく自主的な学習を促す授業スタイル。

### (1) 探究型授業を基軸とした授業づくり

子供同士の対話を生かしながら課題を解決していく授業形式。

基礎プロセスを機能させた授業づくりの充実。

思考を広げ深め、言動活動の効果的な位置付け。

思考・表現ツールとしてのICT器機の活用。

諸調査の結果の分析による指導方法の工夫改善。

### (2) 家庭学習の質の高さを保障する取組み

学習見通しをもち、学習内容や方法を振り返るため「家庭学習ノート」で先生の助言を受けながら自分で、家庭学習の計画を立てる。計画に基づきノートを使い、家庭学習をして、翌日に先生に提出。先生は、当日にすぐ確認して、コメントを出してくれる。家庭学習計画の習慣が身に付いてくる。

### (3) 子供たちの前向きな学習姿勢

自分の考えをもち集団（ペア・グループ・学級）で話し合うという、探究型をスタンダードにする普通の授業の在り方で、学習姿勢が全国的平均に比べて非常に高い。課題を自分たちで解決し、その過程を自分たちの言葉で表現する中で学びの意義を実感。

### (4) 能代市の特色ある取組み

地域と学校が一体となる「コミュニティスクール」

自立に向けた系統的な「特別支援教育」

#### 4 所 感

「子どもたちに自主性や計画性を習得させる」という基本的な目標が明確で、「学校では学力を身につけ、家庭では習慣を身につける」という基本的な役割分担も明確であった。それが保護者と学校との信頼関係の醸成にもつながり、保護者・学校現場、担当課、市教育委員会、県教育委員会が一致団結している。

なによりも、目標達成のために担当課、教育委員会などの人事を含めた組織や制度設計を柔軟に行っていることに大きな驚きを覚えた。このような柔軟性は教育の分野だけでなく、行政の多くの業務領域においても必要な考えであると強く感じる。

一方、教員不足は新潟県と同様に課題になっており、志願者は1.3倍程度と低調とのこと。後日全国資料を見ると6倍から8倍という県も存在し、どこにその違いがあるのか気になるところでもある。